

モダンズム建築の正統派、建築家、芦原義信氏(1918~2003年)の設計で知られる「日光ユースホステル」の価値を再確認しようと、日光市内でまちづくりに携わるNPO法人がこのほど、所野の現地で見学会を開いた。半世紀の歴史を刻んだユースホステルは廃業から10年以上経過し、荒廃が刻々と進んでいる。「その価値を活用できないか」とNPO法人。生い茂る草木の中にひっそりと残る建造物は廃虚か、それとも文化的遺物か。

(大塚順一)

伸び放題の草木を分け入ると目に入るのは、当時は珍しい打ちっ放しのコンクリート壁に石積みのお堀。日光ユースホステルは59年、旧日光市が建てた。青少年に安全で安価な旅の施設を提供しようとする世界的に広がったユースホステル。国内では70~80年代に最盛期を迎え、全国500カ所以上に上った。全国6番目だった日光ユースホステルは、

建築家・芦原氏代表作

排水の処理などに当時最先端の技術を導入し、モダンな建物は国内ユースホステルの基本形として広く影響を与えた。芦原氏の代表作の一つという。

見学会はNPO法人「日光門前まちづくり」が企画した。理事長の岡井健さん(32)は「その後の活用などとは別に、価値を見極めたかった」と話す。

22日の当日は市民や県外の人など約50人が

廃業10年以上の「日光ユースホステル」

参加。建築関係の専門家や専門誌のライターも交じた。

平屋の外観は今もすっかりしているが、一歩足を踏み入れると中は荒れ果て、廃虚そのものだ。それでも、見学会を共催した「ドコ

NPOが見学会企画

モモ ジャパン」の会員で建築家の香川浩さんは「国内に残るユースホステルの中では最も古いものの一つ」とし、建築物としての価値はもちろん、歴史的、文化的価値も含め「多面的価値があるはず」と強調する。

ドコモモはモダン建築の保存、活用を提唱する世界的組織。参加者からも「放置したま

芦原義信氏 建築家。東大名誉教授。ソニービル、東京芸術劇場などの作品で知られる。著書「街並みの美学」で、いち早く都市景観の重要性を唱えた。98年文化勲章受章。

「まではもったいない」という声が続出した。岡井さん。見学会を機に「今後、所有する市と一緒に勉強し、道を探っていければ」と話している。

廃虚か文化的遺物か



廃虚か、文化的遺物か。県内外から50人が集まった日光ユースホステルの見学会=22日午前、日光市所野